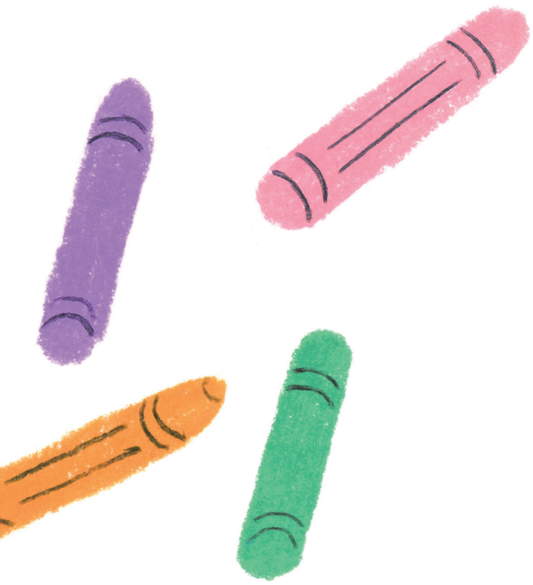
「多様性」に出会う学び

「多様性」は、これからの時代を考えていくための
大切なキーワードです。
この言葉の背後には、幾つもの課題が存在します。
今回は、障害や多様なルーツ、LGBTQ※について、
子どもたちと考えていくために、
どう捉えていけばよいのかを特集します。



※ 「LGBTQ＋」「LGBTI」「LGBTQIA」などのよび方もある。

［エッセイ］

働くろう者と出会って

齋藤陽道（写真家）
Harumichi Saito

いま、全国のいろいろな職業に就いて働くろう者の取材をしています。「働くろう者を訪ねて」という連載です。最終的には、彼らの一冊の写真集を作ることが目標です。

この企画は、私が写真を始めた20代のときから想い続けていたものでした。きっかけになったのは、私が通学していたろう学校の教師の悩みです。

「将来、どんな仕事をやりたいかというイメージがない子が多い。漠然と、公務員や、自動車工場、銀行や旅行会社等の特例子会社でパソコンを使う仕事ぐらいしかできる仕事はないと思って思考停止している。

でもそれは、いろんな仕事に就くろう者がいることをしっかり伝えてこなかった、ろう学校の責任でもある。学校の先生も、聞こえない人の幅広い将来像はほとんど知らない。

仕事をしているいろんな人と実際に会って、話を聞けたらいいんだけど、それにも限界がある。メディアも取り上げてはくれないし。

そうすると聞こえない子どもたちは、自分たちの将来やりたいことを夢見ることも語ることもできないまま、周りの言いなりにしかなれない。」というものです。

手話を言語とする「ろう者」である私自身も、将来どんな仕事をしたいのかイメージがまるでありませんでした。正確に書くと、「聴覚障害者にできる仕事は、なにもないだろう。自分の希望なんて叶わない。どうせどこを受けても断られる」という諦めが根深くありました。流されるまま、ろう学校に紹介してもらった会社に就職します。就職できただけよかったのかもしれないのですが、自分の希望や意志が希薄な仕事は、時間が過ぎるのをぼんやりと待つだけの苦しいものでした。

そんななか、学生のときに触れた写真への関心が、心の中でくすぶっているのを感じていました。写真を通していろんな人と出会いたいという願いが、会社勤めをするなかでどんどんふくれあがっていきます。

どうせだめかもしれない。でも、一度だけでも自分のやりたいことに賭けたい。そうして、一念発起して退社し、写真の道を歩むことになりました。

それからさまざまな縁がめぐり、今、私は写真家として仕事をしています。昔の自分にはまるで想像もできなかった職業に就いています。

未来は自分でつかみとることができるのだと実感したとき、この未来を自分でつかみとることの手応えと可能性を、若いろう者たちにも知ってほしい。聴者にとっても、ろう者の職業のイメージを広げてほしい。そう思うようになり、これが「働くろう者を訪ねて」を始めるきっかけとなりました。

「働くろう者を訪ねて」の取材を始めてから数か月が経った2021年8月現在、取材した人は15人です。

写真家としての私も含め、フリーランス、理容師、パン屋、福祉施設長、NPO代表、格闘家、牧師、八百屋、歯科技工士、映画監督、市議、謎解きクリエイター……。

取材を始めてみて、私自身にも「まさかろう者にそんな仕事はできないだろう」という思い込みがあることに気づかされました。当事者であるはずの私もまた、「ろう者」とか「聴覚障害者」という便利な言葉ひとつで、人間をひとくくりにしてしまっていたのです。

言葉というものは、便利である反面、ひとりひとりの個性をすっかり覆い尽くして見えなくさせてしまう作用があるとつくづく思います。

この世界は、言葉で束ねてしまっていては決して見えてくることのない、個性あるひとりが集まってできている。自分の予想をやすやすと超えて存在する他者との出会いが、「ろう者にはできない」という思い込みをほぐしてくれました。

思い込みがほぐれてみれば、世界に向けるまなざしもやわらかく、かつ、広がりあるものになっています。

出会った皆さんは、手話を抑圧されることなく、自分の大切な言語として使い、働いていました。手話という言語を使い、社会で働いて生きていくろう者がいる。そうすることで、手話という言語が身近にあることを実感する人が増えていく。コツコツとそうした人を増やしていくことが、めぐりめぐって、手話を必要とする当事者の助けとなる。私も、手話という言語を使って生きてきたろう者の先人の助けを得ていたのだと実感しました。こうして社会を変えることができるのだと確信することができました。

私もまた、手話を必要とするいつかのだれかのために、手話という言語をもって堂々と働いていこうと思っています。

齋藤陽道●さいとう はるみち

写真家。東京都立石神井ろう学校卒業。2014年日本写真協会新人賞受賞。写真集に『感動、』（赤々舎）、エッセイに『異なり記念日』（医学書院）、『声めぐり』（晶文社）など。ウェブマガジン『こここ』（マガジンハウス）内で、「働くろう者を訪ねて」を連載中（https://co-coco.jp/series/hataraku/）。